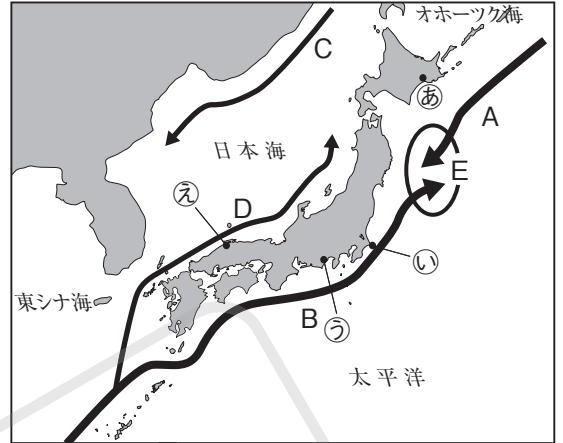


第2回 日本の水産業

標準演習

1 日本の水産業について、右の地図を見て次の問いに答えなさい。

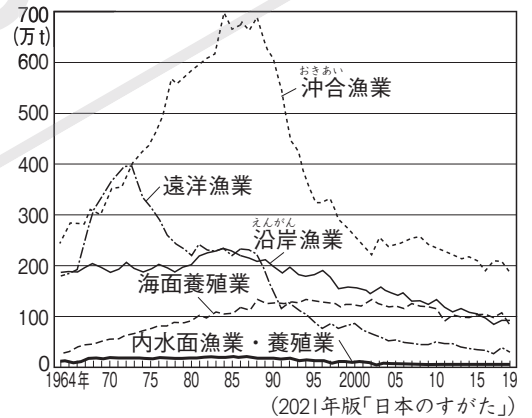


- (1) 地図中のA～Dの海流から、暖流を2つ選びなさい。
- (2) 地図中のEで示した場所は、暖流と寒流が出合うため、魚のえさとなるプランクトンが豊富で、いろいろな種類の魚が集まり、よい漁場になっています。Eのような場所を何といいますか。
- (3) 地図中の㉑～㉔は、日本の主な漁港です。この漁港の名前をそれぞれ答えなさい。
- (4) 地図中の㉑～㉔の漁港で特に水あげ量の多い魚介類を、次の4つの中から1つずつ選びなさい。

かに まぐろ・かつお すけとうだら さば・いわし

(5) 右のグラフを参考にして、次の①～③の文にあてはまる漁業の種類の名前を答えなさい。

- ① 1970年代のオイルショックや、「排他的経済水域」設定の影響で漁かく量を減らしている。
- ② 小型の船を使い、日帰りて漁をおこなう。
- ③ 中型の漁船を使い、経済水域内で漁をおこなう。



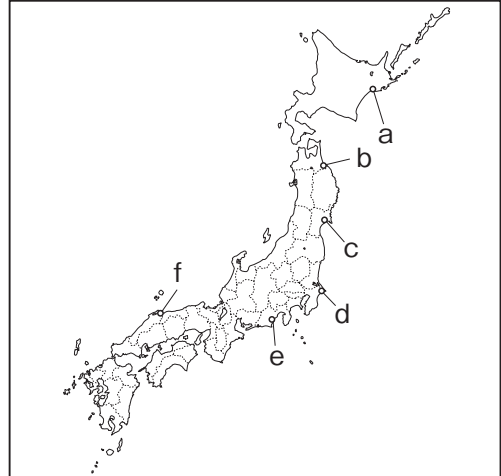
(6) 次の①～④の地域で養殖されている水産物は何ですか。水産物の名前をそれぞれ答えなさい。

- ① 浜名湖(静岡県)
- ② 有明海(佐賀県・福岡県・長崎県・熊本県)
- ③ 陸奥湾(青森県)・サロマ湖(北海道)
- ④ 広島湾(広島県)

(1)		(2)	
(3)	㉑ 港	㉒ 港	㉓ 港
(4)	㉑	㉒	㉓
(5)	①	②	③
(6)	①	②	④

② 日本の漁港について、次の文と右の地図を見て、あとの問いに答えなさい。

- A この漁港はかつて全国一の水あげ量をほこっていた。
かまぼこやちくわの原料となる魚介類の水あげが多い。
- B この漁港は日本有数の水あげ量をほこり、かつおやまぐろなどの遠洋漁業の基地として知られている。
- C この漁港はかつて全国一の水あげ量の座についていたことのある、日本海側の代表的な漁港である。
- D この漁港はいかの水あげ量が多いことで知られていたが、東日本大震災のときに津波の被害が大きかった。現在は減った水あげ量が回復しつつある。
- E この漁港は沖合漁業の基地で、利根川の河口付近にある。

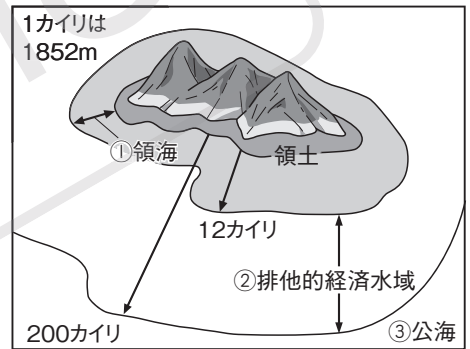


□(1) A～Eの文にあてはまる漁港の名前を漢字で答えなさい。また、それぞれの漁港の位置を、地図中のa～fから選びなさい。

□(2) Aの下線部にあたる魚介類を、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア すけとうだら イ さけ ウ ぶり エ かに

□(3) 右の図は、①領海・②排他的経済水域・③公海を表したものです。それぞれでおこなわれる漁業は、遠洋漁業・沖合漁業・沿岸漁業のうちのどれですか。答えなさい。



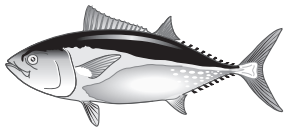
⊛□(4) Bの文中の「まぐろ」は日本で多く消費されている魚で、特にクロマグロは高級魚として人気があります。しかし、近年、漁かく量は急激に減ってしまいました。その理由をかんたんに説明しなさい。

□(5) Eの漁港で水あげされるいわしは、かつては日本の近海で豊富にとれたため、人が食べる以外の目的にも使われました。それはどのような目的でしたか。

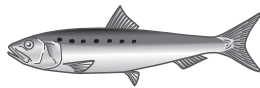
(1)	A	港	B	港	C	港
	D	港	E	港		
(2)		(3) ①	②	③		
(4)						
(5)						

③ 次の①～⑥の魚について、あとの問いに答えなさい。

①



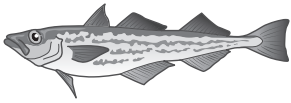
②



③



④



⑤



⑥

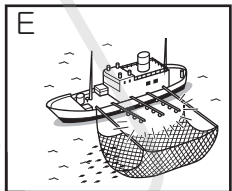
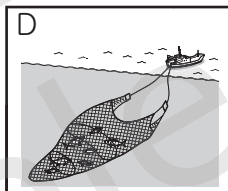
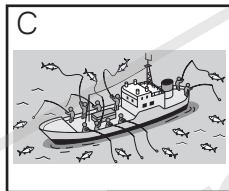
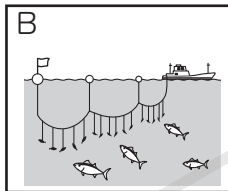
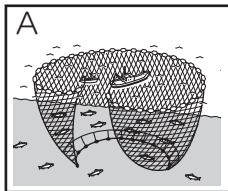


(※実際の大きさとはことなります。)

□(1) ①～④の魚の名前を答えなさい。

□(2) 主にあたたかい海でとれる、大型の魚を①～⑥からすべて選びなさい。

□(3) ①・②・③・④・⑥の魚は、主にどのような漁法でとられていますか。次のA～Eから1つずつ選びなさい。また、それぞれの漁法の名前を答えなさい。



※□(4) ①～⑥の魚を説明した文を、次のア～クからそれぞれすべて選びなさい。

ア 卵はたらこ、身はかまぼこやちくわの原料に使われる。

イ 放流した稚魚は、成長して数年後、秋になると、産卵のために生まれた川にもどってくる。

ウ 黒潮にのって移動する。かたく乾燥させたものは、だしとして料理に使われる。

エ 秋が旬の魚で、漢字で「秋刀魚」と書く。

オ 体長が3mほどにもなる大型の魚で、高級魚として人気が高い。

カ この魚の卵はいくらとよばれている。

キ 養殖がむずかしいとされていたが、近年、日本でこの魚の養殖がおこなわれるようになった。

ク 日本では、①～⑥の中で水あげ量が最も多い魚である。

(1)	①	②	③	④
(2)				
(3)	①	漁法	②	漁法
	④	漁法	⑥	漁法
(4)	①	②	③	
	④	⑤	⑥	

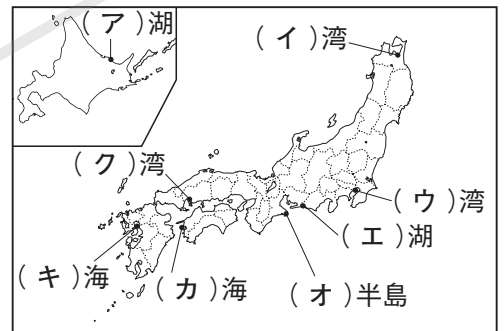
4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

宮城県みやぎの気仙沼けせんぬまは①三陸海岸さんりくの南部にある漁港と水産加工業で知られる街です。波の静かな入り江では昔からかきなどの②養殖がさかんでした。しかし、昭和40年代から50年代にかけてこの地域の海の環境が悪化し、海が変色して見える(A)が発生してしまいました。養殖していた③かきは大きな被害を受け、湾内の魚も少なくなってしまうそうです。

そうした中、気仙沼湾で養殖業を営む漁師は、④川が運んでくる森の栄養分が海の生き物を育ててくれることに気づき、気仙沼湾に注ぐ川の上流にある森林に木を植える活動を始めました。この活動は「(B)運動」という合いことばでよばれ、全国に広まりました。漁師の植林活動は、森も川も海も自然界の中ではつながっているのだということを教えてくれています。

- (1) 下線部①について、三陸海岸の複雑に入り組んでいる海岸地形を何といいますか。
- (2) (A)にあてはまることばを答えなさい。
- ⊛ (3) (B)にあてはまることばは、森と海の関係がわかりやすく表現された合いことばです。(B)にあてはまることばを答えなさい。
- (4) 下線部②について、次のア～オの説明のうち正しいものを1つ選びなさい。
 - ア 稚魚になるまでいけすなどで育ててから海に放流する漁業を養殖漁業という。
 - イ 「とる漁業」にかわり「育てる漁業」が漁かく量の8割をしめている。
 - ウ 養殖はあまり費用がかからない。
 - エ 養殖漁業は、計画的に生産することができ、安定した収入を得やすい。
 - オ 養殖のさかんな水産物は、ほたてやかきの貝類とまぐろなどの高級魚に限られている。

- (5) 下線部③について、かきの養殖が日本で最もさかんな地域を、右の地図中の(ア)～(ク)から1つ選びなさい。また、その()にあてはまる地域の名前を答えなさい。



- ⊛ (6) 下線部③について、かきが育つのに適した場所の条件を、上の文章を参考にして2つ答えなさい。
- ⊛ (7) なぜ漁師が植林活動をおこなったのでしょうか。下線部④を参考にして、海と森の関係にふれて説明しなさい。

(1)	海岸	(2)		(3)	運動	(4)	
(5)	記号	地域					
(6)							
(7)							

発 展 演 習

① 右の新聞記事は、日本人の食生活になじみの深い、クロマグロの漁かく規制について報じたものです。近年、世界でクロマグロの消費量が増えていることで乱かくがおこなわれ、クロマグロの絶滅が心配されていることが、このような規制につながっているのです。



クロマグロの世界的な消費国である日本では、このような動きに対し、どのような取り組みがおこなわれていますか。例を一つあげて説明しなさい。

② 周囲を海に囲まれた日本は、昔から世界でも有数の水産業のさかんな国です。中でも、日本近海には、右の地図中のAのような大陸だなや、Bの潮目という漁業に適した場所があります。なぜ大陸だなや潮目が漁業に適した場所だと考えられますか。それぞれ説明しなさい。



※大陸だな=大陸の周辺にある、傾斜のゆるやかな海底。平均的な水深は100~200mで、大陸だな以外の海底に比べると非常に浅い。

大陸だな

潮目

③ 魚は限りある水産資源です。いま、「とる漁業」ばかりではなく「つくり育てる漁業」の努力が日本各地でおこなわれています。「養殖漁業」や「栽培漁業」は、どちらも人工的に魚を育てていくための工夫ですが、両者にはちがいがあります。「養殖漁業」と「栽培漁業」のちがいについて説明しなさい。

④ 右の写真は、インドネシアのえびの養殖場のようすです。インドネシアでは、マングローブという水辺に生える熱帯林を切り開いて養殖場をつくってきました。その結果、インドネシアでは、マングローブの森林が減り、問題になりました。この問題には日本も深く関係があるといわれ、日本人による植林活動もおこなわれていました。なぜ、この問題に日本が関係しているのか、右のグラフを参考に説明しなさい。

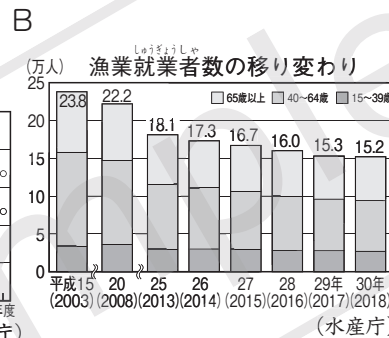
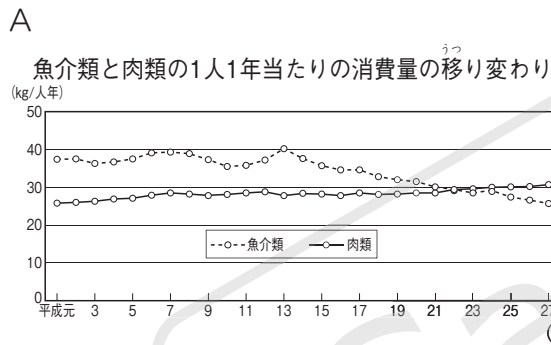


日本のえびの輸入先 (合計 1600億円)

ベトナム	インド	インドネシア	その他
21.4%	20.3	16.7	41.6

(2020年) (2021/22年版「日本国勢図会」)

⑤ 水産業に関するA～Cの資料をもとにして、あとの問いに答えなさい。



C 漁業経営の概況

	2003年	2019年
漁業経営体数	132 417	73 270
うち個人経営	125 931	68 900
漁業就業者数(千人)	238	145
うち自営漁業(千人)	176	80

(2021/22年版「日本国勢図会」)

□(1) Aの資料は、魚介類と肉類の消費量(食べる量)の移り変わりを示したグラフです。このグラフからどのようなことがわかりますか。かんたんに説明しなさい。

□(2) BとCの資料は、水産業で働く人に関する統計です。この資料から、日本の水産業がかかえる問題点がわかります。どのような問題点か説明しなさい。

□(3) 漁師の仕事は、自然を相手にして危険をとまなううえに収入も安定していません。そのため、国や漁業関係者は、漁業のみりよくを広める活動や魚を使った新しい商品の開発を進めて、水産業を元気にする取り組みをおこなっています。日本の水産業を守るためにはどうすればいいか、(1)でわかったことと(2)の問題点にふれながら、あなたができることを考えて述べなさい。